

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	静定構造力学Ⅱ及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/必修科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田和明・平松晃						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静定ばりと静定ラーメン構造の力学的特徴を把握し、応力図を描くことができる。(A6,B1)</li> <li>・応力度の算定方法を身に付け、組み合わせ応力の算出ができる。(A6,B1)</li> <li>・各種の断面定数のもつ意味を理解し、断面定数の計算ができる。(A6,B1)</li> </ul>						
日程と内容	9/16 導入講義 9/30 応力の意味・QM・片持梁応力図 10/7 単純梁応力図 10/14 区間ごとに求める応力 10/21 静定門形ラーメン応力図 10/28 斜材をもつ左右対称・3ヒンジラーメン応力図 11/4 臨時試験と解答解説 11/11 垂直応力度とせん断応力度 11/18 曲げ応力度算定・縁応力度 11/25 せん断応力度分布と断面形状 12/2 組み合わせ応力度と断面の核 12/9 図芯と断面一次モーメント 12/16 断面二次モーメントと平行軸の定理 12/19 断面主二次モーメントと主軸、極二次モーメント 1/13 定期試験 1/20 まとめ						
成績評価基準	定期試験	30%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	10%					
	演習	30%	計		100%		
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静定ばりと静定ラーメン構造の力学的特徴を把握し、応力図を描くことができる。(A6,B1):不十分である。</li> <li>・応力度の算定方法を身に付け、組み合わせ応力の算出ができる。(A6,B1):不十分である。</li> <li>・各種の断面定数のもつ意味を理解し、断面定数の計算ができる。(A6,B1):ほぼ達成できた。</li> </ul>						
反省点	数学の知識がなく、構造力学の授業についてこれない学生が増大している。試験で比較的良好な成績を取っている生徒でも、基本を理解している生徒は僅かで、大半の生徒は、解き方だけを覚えているにすぎない。生徒は、皆、良好な成績を取るためだけに勉強しているようで、そのような生徒に対する授業方法を考えていく必要がある。						
来年度の計画	数学の知識がない学生に関しては、授業の前に、その総復習をさせる必要がある。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は7.4点であった。やはり、もう少し、ゆっくりと学生の反応を見ながら授業を進めるべきであったと反省している。						
履修登録者数	92名	定期試験 受験者数	83名	合格者数	76名	合格率	92%